

# 東 海 書 道 藝 術 院

令和5年4月

<http://www.toshogei.jp/>

## 第七十回記念公募 東海書道藝術院展 開幕

会期：令和五年四月四日(火)～九日(日)

第一会場：愛知県美術館ギャラリーI  
第二会場：名古屋市民ギャラリー栄

春爛漫、陽光輝き心踊る。ここに節目となる第七十回記念東海書道藝術院展が開幕となった。続く制限下の中、各会員・組織一丸となり力を尽くして迎えたこの日、その結晶が両会場に鮮やかに咲き誇る。今東書藝は、多くの偉大な先達の精神を受け継ぎ、ここからまた新たな一歩を踏み出さんとするものである。



会 長 風 岡 五 城

### 七十回記念展を迎えて

桜の花が春風に誘われて空に舞う好時節に、本会は七十回の記念展を迎えました。今回は記念として作品集を作ることになり、その編集過程で皆さんの作品はすでに写真で見えていますが、それでは本当のところは伝わってきません。直接対面できる日を心待ちにしていました。一口に七十年と言いますが、その道程は決して平たんではありませんでした。数年前、感

が収まらないコロナ禍の中、一時は本展の開催さえ危ぶまれました。役員の方々のご尽力、会員の皆様のご理解・ご支援により一度も休むことなく続けてこられました。会長として感謝に堪えません。

また、本展に先だつて二月には「東海書道藝術院を築いた先達」と銘打つて院人研が開かれました。歴代会長・副会長のお人柄を偲び、それぞれのお作品を映像で鑑賞するを通して、本会七十年の歴史を振り返る機

会となり、時宜を得た好企画でした。この詳細についてはまた別の機会にお知らせしたいと思います。楽しみにしてください。

過去を振り返るだけでなく、今をそして明日の東書藝はどうあるべきかを考えることも大事です。共に手を携えて進めていくことはありませんか。

大賞 酒井奏風氏(名古屋市中区)  
準大賞 伊神曉風氏(扶桑町)

### 第七十回記念展 審査会

三月一日・二日の両日、ウイナル愛知で行われた審査会。委員長風岡会長をはじめ審査員の先生方は、特別な七十回記念展の審査とあつて一段と高い緊張感で候補作品の一点一画に全神経を集中された。持ち点の集計では同点決勝もまた度々。公正・厳正な判定は二日午後終了し、各受賞者が決定された。

第七十回記念 東書藝展  
各部受賞者名

会員の部

【秀作】

土井早知子

【中日賞】

川村 大観

【秀作】

水野 碧友

【大賞】

背尾 玉輝

水野 陽雲

【東書藝賞】

古田 美川

酒井 奏風

三苦 花風

荻野 陽華

古井戸春華

【準大賞】

佐藤 麗光

小川 清流

三島 晃

伊神 暁風

西 玉鳳

【推薦】

近藤 秋香

【知事賞】

佐賀 薫風

野呂 妙香

加田 麗芳

牧原 青桐

笠井 紅竹

富永 邑璃

小川 清秋

【総領事賞】

三谷 玉蓮

【特選】

川合 翠麗

毛利 天岳

石黒 井泉

阿久津研道

小川 清秋

【中日賞】

富永 奇伸

石川 明正

山田なつ湖

松浦 白沙

谷口 桂月

小倉 一鳩

小掠三矢子

【東書藝賞】

熊澤 華香

尾上 知翠

山田なつ湖

【特選】

辻 雪華

川崎 芳春

小掠三矢子

【市長賞】

小田恵美子

坂巻 春光

伊藤 芳苑

駒田香代子

【県教委賞】

坂巻 春光

伊藤 芳苑

蒲野 綾扇

前田 沾泉

祖父江津瑤

伊藤 芳苑

安田 琳華

【市教委賞】

長谷川剛士

伊藤 芳苑

小林 白珠

若宮 舞奏

松枝みどり

伊藤 芳苑

園田三輪子

大園由美子

大園由美子

伊藤 芳苑

園田三輪子

大園由美子

大園由美子

伊藤 芳苑



会場で審査をする先生方

今井 芝泉

【東書藝賞】

岩本 恵子

酒井 俊泉

鬼頭由美子

福島 健仁

神田 遊美

林 里衣

杉原 照楓

加藤加壽子

会友の部

【推薦】

小川 清流

小川 青螺

【県教委賞】

安藤 紗綺

近藤 秋香

岡島 詠子

【市教委賞】

小松 あゆ

【中日賞】

梅鉢 香春

【特選】

小掠三矢子

河田 春香

渋谷 恵子

佐野 春信

山口 美風

河原 光玉

前島 香草

山口 白華

後藤 南星

村上 朝朗

梅林 香堂

阿久津清孤

公募の部

村上 佑子

橋口 智美

【中日賞】

玉越 清香

水貝 光華

岸田 眞代

岸田 眞代

【東書藝賞】

安井 繁美

長谷川華芳

谷本 春聲

宇佐美 諄

暮石 知子

岡田 紅凜

三輪 啓子

野村 邦子

【秀作】

浅川 恵翠

浅川 恵翠

【推薦】

上田 智水

木村 彩華

森本 春香

蛭川 晴峯

伊藤 芳苑

大塚真由美

加藤 由恵

島山 景蓬

中嶋 静花

柴田 惺

篠田 邦子

【特選】

高木 風花

舟橋 隆子

高田 有子

井上 香雪

【秀作】

川口 敦子

七十回記念展審査員

審査委員長

(敬称略)

風岡 五城

会員・準会員担当

安藤 清舟・谷口 竹城

西尾 邑城・松浦 白碩

伊奈 咏玉・鈴木 紫舟

木村 大澤・安藤 餘香

伊藤 春魁・富永 奇昂

水谷 紅楓・山本 晴城

荒川 青曠・井浪 幸潭

大竹 翠葉・荻野 芝翠

近藤 春雪・長谷部升香

吉田 南洋

原 桃梨

平子 幸子

矢田 麗花

勝谷 采音

加藤 千華

滝口 玉道

金島 麗風

宮房由加里

藤井 結子

六浦 涼賀

志水 愛泉

澤野 麗香

大脇 夢路

奥山 正子

川口 敦子

今田 英風

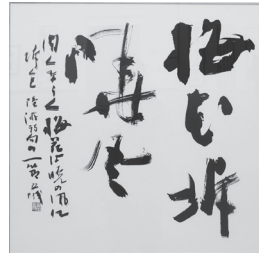
前田 優

'23 今日（こんにち）の書展

令和五年一月十一日〜十五日、愛知県美術館ギャラリーで開催。本展は東海の書活動を盛り上げるべく立ち上がった中部圏書芸作家協議会（現在は東書藝を含む四団体）と中日新聞社が主催して、今年で三十六回目となった。総展覧数二百三十一一点、東書藝からは最多百六点の出品で、中核としての存在感を大いに示した。例によって会場内に掲示された各団体のスローガン



と作風を味わいながらの鑑賞が楽しい。主な幹部作品を寸評なしで掲載しよう。



「梅花坂晚風」 風岡五城

「蘇東坡句（龍飛鳳舞）」 安藤清舟



「王漁洋詩」 木村大澤



「つぶやき」 岩田冬彦



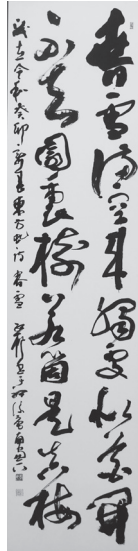
「陽春布徳澤」 安藤餘香



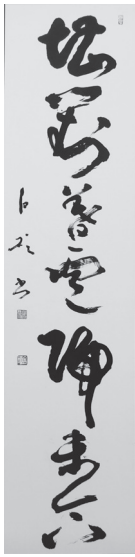
「松尾芭蕉の句」 伊藤春魁



「春和貽蕩」 山本晴城



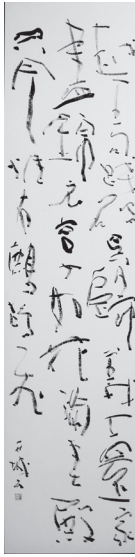
「東方虬詩・春雪」 水谷紅楓



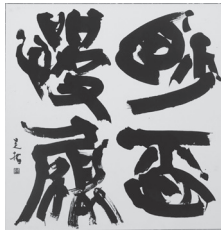
「対句樹古・華幽」 西尾邑城



「李白詩」 谷口竹城



「王灣詩」 羽根田宣風



「眇視跛履」 勝田晃拓



「死」 富永奇昂

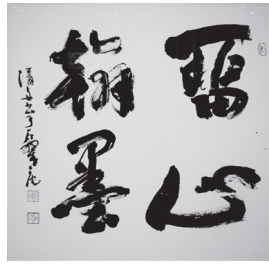


# 第58回 新春東書藝代表作家展

令和五年の新春を飾る東書藝代表作家展が一月二十四日、二十九日、名古屋電気文化会館ギャラリーで華やかに開催された。幹部役員以下常任理事までの中から四十三名の出品で、「今日の日書展」と共に一月の大いに楽しみな行事である。本頁では、流石の力作群から特に目に留まった幹部以外の作品も、こちらも評なしで紹介したい。



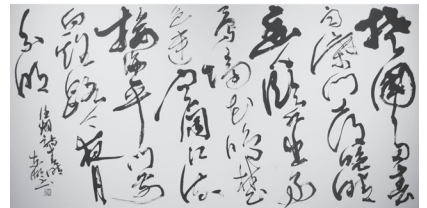
「匪躬」 風岡五城



「留心翰墨」 安藤清舟



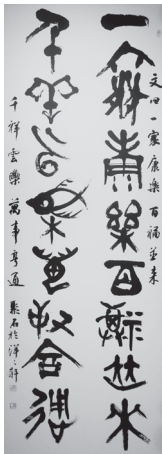
「斷而敢行鬼神避之(史記)」 木村大澤



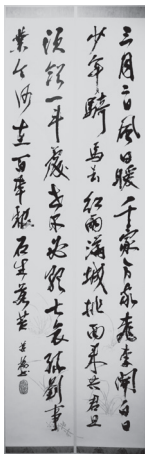
「任翻詩」 鶴見東湖



「山」 石川青崖



「一家康樂 他三首」 河合聚石

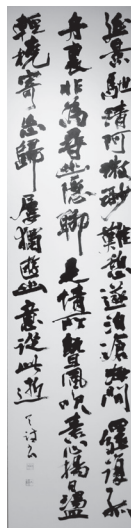


「薩都刺詩」 羽根田萱橋

| 出品作家  |       |      |
|-------|-------|------|
| 風岡五城  | 安藤清舟  | 岩田冬崖 |
| 谷口竹城  | 西尾邑城  | 松浦白碩 |
| 水谷紅楓  | 石川青崖  | 今枝大軒 |
| 大崎翠石  | 河合聚石  | 鈴木紫舟 |
| 羽根田菖橋 | 木村大澤  | 安藤餘香 |
| 伊藤春魁  | 富永奇昂  | 山本晴城 |
| 浅岡桃苑  | 荒川青曠  | 有竹海山 |
| 井浪幸潭  | 下村香遥  | 杉浦千花 |
| 鈴木礼美  | 田附裕子  | 田中芳園 |
| 鶴見東湖  | 中島惠華  | 丹羽真水 |
| 長谷部升香 | 羽根田菖風 | 林春紅  |
| 林磐泉   | 福井溪風  | 堀江龍舟 |
| 堀場仁翠  | 増田一翠  | 松岡麗泉 |
| 三品芳翠  | 宮本華楓  | 村瀬天謙 |
| 吉田南洋  |       |      |



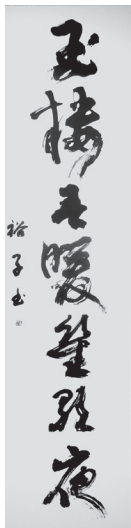
「桃源漁父行其一」 村瀬天謙



「儲光義詩」 林春紅



「崔魯句」 田附裕子



「忘れ物」 吉田南洋



「忘れ物」 吉田南洋

# 2023 東書藝院人研修会

令和五年  
二月十一日  
(土)、愛知  
県芸術文化



風岡五城会長

にて院人研修が行われた。

東書藝七十周年を迎える今年  
のテーマは「東書藝を築いた先  
達」。歴代の会長、副会長に縁  
のあった先生方から先達の教え  
や思い出が語られ、後半は作品  
の鑑賞をした。

風岡会長からは「先達を偲ぶ



研修会場 司会は石黒鴻羽研修部長

とともに、先生方の志と書の技  
を正しく理解し、それを受け継  
ぎ、次の時代に伝えるきつかけ  
にしてほしい」ということが  
あった。

## 先達の作品鑑賞



初代会長  
大池晴嵐先生



二代目会長  
浅田逢村先生



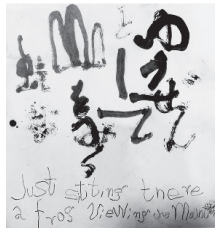
副会長  
梶田東崖先生



三代目会長  
神谷葵水先生



五代目会長  
澤井瘦蛙子先生



四代目会長  
小川南流先生



六代目会長  
豆子甲水之先生



副会長  
富永奇洞先生



お話しくださった先生方  
加山幽石（ビデオ出演）、羽  
根田菖橋、鈴木紫舟、安藤餘香、  
松浦白碩、渡辺清香、安藤清舟、  
富永奇昂の各先生。

## 書展訪問

### 第39回花墨会展

令和四年十二月十七日・十八  
日、三重県孤野町図書館で開催。  
松岡麗泉常任理事主宰で、教室  
の一般・学生合わせて七十点を  
展示。主宰「日々是好日」は

円熟の半  
切軸、故  
大池晴嵐  
先生の軸  
作品「莫  
妄想」が  
会場全体  
を引き締  
めていた。  
厳寒の中、  
実に心温  
まりほっ  
とした好  
展。



松岡麗泉主宰



第38回景雲社「絆」書道展

令和五年  
二月十三  
日～十九日、  
クリエート  
浜松ギヤラ  
リー35で開  
催。勝田晃  
拓代表以下  
会員四十六



勝田晃拓代表

点、U25特別出品四点の計五十  
点の出品で、いつもながら自室  
に飾って鑑賞したくなる見応え  
十分の作品が多く、魅力がいつ  
ぱいの展覧だ。代表の「あるあ  
る逆転人  
生」も実  
に楽しく、  
ユーモア  
溢れて晃  
拓ワール  
ド全開。  
景雲社の  
益々のご  
発展を。

第13回有鄰書展

令和五年  
三月八日～  
十二日、岡  
崎市美術館  
において開  
催。展示は  
会員四十七  
名の作が  
五十九点。  
有鄰会は  
故・神谷葵



安藤餘香代表

水先生の教えを源流に、安藤餘  
香代表がそのエッセンスを見事  
に受け継ぎ意欲的な活動をされ  
ている。会場には真摯に書き込  
まれた力作が並び、特に幹部作  
品は先師由  
来の格調高  
い筆致で素  
晴らしい。  
多くの熱  
心な来場者  
で盛会だっ  
た。

今後の予定

- ◇第44回宏道書会选择展  
会期 5月16日(火)～21日(日)  
会場 栄サンシティギャラリー  
主催 宏道書会(山本晴城)
- ◇豆子甲水之生誕百年  
第64回新道書道会展  
会期 6月1日(木)～4日(日)  
会場 四日市市文化会館  
主催 新道書道会(豆子柴甲)
- ◇第28回無名會書展  
会期 6月6日(火)～11日(日)  
会場 名古屋市民ギャラリー栄  
主催 無名會(渡辺清香)
- ◇23八千代書道展  
会期 6月17日(土)・18日(日)  
会場 くわなメディアライヴ  
多目的ホール  
主催 書芸八千代会 梶 蘇山
- ◇令和5年度東書藝総会  
期日 6月18日(日)  
会場 中電ホール
- ◇23「今日の書」代表作家展  
会期 7月11日(火)～16日(日)  
会場 名古屋市民ギャラリー栄  
主催 中部圈書芸作家協議会
- ◇第39回清和会書展  
会期 8月22日(火)～27日(日)  
会場 名古屋市民ギャラリー栄  
主催 清和会(西尾邑城)
- ◇第49回宏道書展  
会期 8月22日(火)～27日(日)

会場 名古屋電気文化会館  
主催 宏道書会(山本晴城)

◇東書藝夏期一泊研修会  
(詳細検討中)  
期日 9月3日(日)・4日(月)  
会場 愛知県蒲郡方面

◇23心象展  
会期 9月5日(火)～10日(日)  
会場 愛知県美術館ギャラリー  
主催 好日社(岩田冬崖)

◇第57回碩山書院一門展  
会期 9月9日(土)～10日(日)  
会場 蒲郡市民会館東ホール  
主催 碩山書院(大竹翠葉)  
全振興会

◇第65回記念游心書展  
会期 9月12日(火)～18日(月)  
会場 愛知県美術館ギャラリー  
主催 游心書道会(松浦白頰)

◇第26回東書藝選抜小品展  
会期 9月12日(火)～17日(日)  
会場 栄サンシティギャラリー  
主催 東海書道藝術院

祝賀会の再開が決定。満喫し  
て明日からのエネルギーになさ  
ってください。入選・入賞の皆  
様、おめでとうございます。

令和五年四月 第一四八号  
発行 東海書道藝術院  
編集 加藤松亭  
堀江龍舟